

幕末維新期の在村蘭方医・関島良致の軌跡

青木歳幸

The Legacy of Sekijima Ryoichi, a Village Physician of Western Medicine at the End of the Edo Era and the Beginning of the Meiji Period

はじめに

- ① 関島良致の略歴
- ② 関島良致の医学系譜
- ③ 寺子屋教育と関島家
- ④ 関島家の文化的・経済的位置
- ⑤ 「書籍諸道具目録」と良致
- ⑥ 関島家「書籍目録」にみる蘭方医学書
- ⑦ 医学書出版と良致の医療活動
- ⑧ 博覽会出品世話役としての関島良致
- ⑨ 古器物収集と関島良致

おわりに

[論文要旨]

近年の蘭学研究において、幕末から明治にかけての在村蘭方医の潮流が明らかになりました。しかし、彼らが地域医療の近代化や自由民権運動に果たした役割もまた解明されつつあります。しかしながら、殖産興業において果たした地域の蘭方医の役割については、まだ未解明の部分が多い。そこで、本稿では、飯田の蘭方医・関島良致の活動を軸に、幕末維新时期の地域の近代化に蘭方医がどうかかわったかをあきらかにする。

関島良致の父良基は漢方医であるが、医業のかたわら百華園という薬草園を経営し、寺子屋教育をおこない、村に甘藷栽培を奨励するなど村の殖産興業にも意を用いていました。そこへ養子にはいった良致は、名古屋の蘭方医柳田凌雲、水谷豊文にまなび帰郷して開業した。百華園経営、寺子屋教育も継続し、歌舞伎誘致などの文化活動のほか、多数の漢方医学書や蘭方医学書を購入するとともに、師の蘭方医書を出版した。学問は、寺子屋師匠としての学問と漢方医学、蘭方医学のほか、本草学から発展した博物

学、とくに古器物の収集へと関心をもつた。

維新後は、その蘭方医学・本草学知識を請われて、ウィーン万国博覧会の物産世話役として、物産収集にあたった。この世話役には各地の医師を始め物産愛好家が選出されていた。明治初年の試行錯誤の段階であった産物収集において、蘭方医らの知識が有用であったことがあきらかになった。

関島良致は、寺子屋師匠でもあり自己の家を小学校の仮校舎に提供しつつ小学校設立及びその教師として活動し、地域の教育に深く関わっていた。このように、維新时期から明治初年に地域に生き、地域の教育や産業の育成等にかかわった蘭方医としての動向や天覧御物と出品者をさぐることで、地域の産業の近代化の動きと蘭学とのかかわりもかなりみてくるではないかとの見通しをもつてゐる。